

川に親しむ

「よなご環境学習推進フォーラム」代表

おおた とみお
太田 富雄 さん（米子市皆生）



太田 富雄さん

米子市では毎年、環境をテーマとしたさまざまな活動を通じて、子どもたちに自然環境の大切さを学んでもらおうと、市内の小学生を対象とした『こども環境探検プログラム』という事業を実施している。これは「エコDEまんぷく」「ウォーターワールド in よなご」「それ行け中海探検隊」「メダカみつけ隊」「YONAGOジャングル探検」といった5つのイベントに各10人の子どもたちが参加して、それぞれに1年間の探検・研究成果をまとめあげていくもの。17人の市民ボランティアで組織する「よなご環境学習推進フォーラム」は、このイベントの運営役をつとめ、子どもたちと自然環境とのふれあいを支えている。代表の太田さんは、この中で日野川の水のきれいさや川の中の生き物を観察していく「ウォーターワールド in よなご」のサポーターもつとめる。

このイベントでは、1年の間に日南町三栄（上流）、江府町白水新水公園（中流）、日野川八幡橋付近（下流）の三箇所それぞれに生息する生き物を観察していく。「子どもたちは、川に入ったらすぐに石をひっくりかえしては水生生物を見つけ、びっくりしてはしゃいでいますよ」という太田さん。カワゲラやヒラタカゲロウ、ヘビトンボ、ヒラタドROMシなどが分かるそうだ。



水生生物調査をする子供たち

「**最**初のころ、子どもたちは川に入ることそのものが楽しいんです。それが一年間のうちにだんだんと関心が自然や環境の大切さへの方へと向いていきます。その成長ぶりにはびっくりします。日野川は、自然環境のことを学ぶには絶好の場所ですよ」

転勤で都会地から引っ越してきて初めてこのイベントに参加した小学生の父親から、「米子にきて本当に良かった。子どもがすばらしい自然と出会い、環境について強い関心をもったことに感謝しています」という、お礼状が届いたこともあったそうだ。

自然が豊富と言われている鳥取県西部でも、普段の生活の中ではなかなか環境の大切さを実感できない時代になっている。「身近なところから、環境学習は始まります。子どもたちには調査を通じて、理屈ではなく体と肌で自然環境の大切さを感じてもらいたい。自分で知りたいと思わなければ自然のことはわからないということ、この活動の中で子どもたちには体験して身につけてほしいですね」

日野川の自然が子どもたちの心を育てていくのだろう。「よなご環境学習推進フォーラム」は、平成11年にスタートしてから今年で発足3年目になる。米子市の『こども環境探検プログラム』での活動の成果を子どもたちが自分たちの手でまとめた報告壁新聞は、5年連続で環境省主催の全国フェスティバルで発表されている。

「子どもたちには、調査の後で家に帰ってから、家族に川の魅力や環境の大切さについて話をしてもらいたいですね。学校で、友達にも話をしてほしい。1人の感動や関心が、5人、10人と広がっていってくれば」と太田さんは抱負を語っている。



平成14年夏 日野川の水生生物調査体験教室

日野川今昔
故きを温ねて

出雲街道 ③

出雲街道をゆく

二部宿

二部宿は、上方街道（出雲街道）の重要な宿駅で、新出雲街道、法勝寺往来も必ず通過することになっており、日野川上流部の黒坂方面への道もここから分かれる。日野郡交通の要衝の地であった。

足羽将監の居城跡と伝えられる二部城跡もある。中世以降の歴史を持ち、安政5年（1858年）には口（くち）日野郡役所も置かれ出雲街道の宿場として栄えた。松江藩が参勤交代をするときの本陣は旧家の本家足羽家が勤めた。二部宿中央に本陣跡がある。



出雲街道絵図（天保年間 1830 ~ 1844）に描かれた二部宿周辺



近江屋の道標

近江屋の道標

二部の町外れに、嘉永2年（1849年）に大阪道頓堀日本橋詰の今でいう、旅行者近江屋市次郎の建設した道標がある。「左 大さか道」と刻まれている。



雲州松平侯本陣跡